

論文(事例研究, 研究レポート, 総合報告)を募集します

理論と応用は車の両輪

「オペレーションズ・リサーチ」(以下OR誌)ではORの応用に重点をおいた研究論文を募集します。この目的は、言うまでもなく、企業人の学会への参加と、大学人の現場への接近を促すことです。ORにおける理論と応用は車の両輪のようなもので、バランスをとることが必要です。いかに精緻な理論・手法といえども、適用された事例がなければ「OR」理論・手法としては色褪せたものになるでしょう。現実にはいろいろな場面で適用されていながら、当事者以外の目に触れる機会はあまり多くはありません。適用のされ方、その問題点が明らかになることによってさらに理論研究が進み、それがまた適用されて有用な結果を生む、という正のサイクルを生み出していくために、事例が公表されることが必要だと思われれます。

試行錯誤を応援します

日本OR学会のもう1つの雑誌 Journal of the Operations Research Society of Japan (論文誌)は理論的な成果が多く発表されていますが、応用的な研究、適用事例に関する論文がなかなか採択されません。応用に関するものは試行錯誤的な面があり、その評価がむずかしいことがその一因だと思います。OR誌は必ずしも評価が確定していないものでも、その時点で有用だと思われるものを積極的に掲載します。

実際の問題からの発想

論文の種類は現在のところ事例研究、研究レポート、総合報告の3つがあります。事例研究、研究レポートは実際の状況にORの考え方・手法を適用した際に得られた新しい経験・発見を論文の形にまとめたものです。事例研究は実施にあたっての工夫、あるいは問題点の分析などがテーマになり、研究レポートはその際に得られた理論的な知見、あるいは新しい視点を提示したものです。特に事例研究については適用している手法が完全にオリジナルではなくとも、内容が実際の事例に関してのもので、その取り扱い方に新規性があり、学会員に対して、あるいは、本誌を購読されている一般の読者に対して刺

激を与えるものであれば、積極的に採択します。

実務家向けの総合報告

総合報告はあるテーマについて著者の考えのもとに現在の到達地点を整理し、将来への展望を明らかにするものです。主たる読者はその分野の専門家というよりは、実践に生かそうと考えている実務家、あるいはそのテーマについてこれから勉強しようと考えている人達を想定しています。そのため、体系的な参考文献と基本的な教科書が提示されていることが望まれます。

査読付き論文です

投稿された論文は、複数の方に審査していただき、そのご意見をもとに編集委員会が採否を決定します。ほとんど書き直しがない場合、投稿されてから半年で掲載されます。掲載された論文は、論文誌掲載論文同様、査読付き論文として扱います。

論文は読みやすく

論文を投稿される場合、その書き方のスタイルについて注文があります。理論的な論文であれば、本当に理解できる人は世界でも数人というような難解なものでも内容的にまちがっていなければ採択されることがあります。しかしOR誌の論文では応用面での貢献度を評価の重要な基準にします。貢献のなかには表現が平易で多くの人に理解される、ということも含まれます。扱っている問題の背景が十分理解できるようなイントロダクションを付けるなど、その道の専門家でなくても興味ある人が読めば分かる程度の表現を工夫してください。

論文は簡潔に

原稿の長さは図表を含め長くても刷り上がり6ページ程度(約12000字)が興味を持続して読むのに適当な長さだと思いますが、読者の理解のために必要とあれば多少長くなっても構いません。投稿原稿はワープロを使って作成し、3部を日本OR学会事務局(〒113 文京区弥生2-4-16)にお送りください。

「オペレーションズ・リサーチ」編集委員会